

校長室より

第42号

「天空高き」



平成24年12月18日

大掃除のススメ

みなさんの家庭でも、年末の大掃除をしたいと思います。大掃除は、暮れの年中行事であった「煤払い」がその由来だそうです。

煙とホコリが一緒になって天井などについたものを“煤”といいます。炊事や暖を取るのに昔は薪や炭を使って火を起こしていたので、家の中はいつも煤だらけでした。



日本人は昔からお正月には「歳神様」を迎えるために、家の隅から隅まできれいに清めていました。元旦を中心とする大正月は、そもそもは歳神様をお迎えしてお祭りするための行事です。✂飾りや鏡餅なども歳神様をお迎えするためのものです。

「歳神様」というのは、正月を迎えるにあたり、大晦日の夜にその年の吉方である*恵方より各家庭を訪れ、その家族に一年間の健康と幸福を授け、小正月（旧暦の正月のことで現在の1月15日）の頃に再びお還りになられる神様です。だから、年末の大掃除は、日本人にとっては、ただの掃除ではなく、一年の感謝と新年の健康と幸せを願う神聖な儀式のようなものでした。

日本の学校では、生徒全員が掃除をするのは当たり前です。でも、海外では生徒が学校を掃除するという事はないと聞いています。これは、おそらく海外では掃除を「労働」だと考えているからでしょう。しかし、日本では掃除というものは、ただ単に「汚れを落とす」だけの労働としてだけでなく、同時に「心の内面を磨く」精神的修行も兼ねているからだと思います。

「きれいな学校」は我々に見ただけでなく、心も気持ちよくしてくれます。年末は、今年一年健康で幸せな毎日を過ごせたことに感謝して、家族で協力して一年分の汚れを落とし、新しい年を新たな気持ちでスタートできる準備にしてください。

*恵方（えほう）：陰陽道で、その年の干支に基づいてめでたいと定められた方角。

自分自身が嘘偽りなく、一生懸命やっていたら、それを感じ取ってくれる人が現れる。

宮大工 小川三夫

ノーベル医学・生理学賞を受賞した山中伸弥先生

ノーベル賞の授賞式が10日にストックホルムでありました。本当に素晴らしい今年のビッグニュースです。

山中先生は、皮膚の細胞にたった4つの遺伝子を入れるだけで、体の中のほぼ全種類の細胞になれる能力「多能性」をもつiPS細胞（人工多能性幹細胞）をつくりました。このiPS細胞により「再生医療」の医療新時代の扉が開かれましたが、あるインタビューで「iPS細胞の成果が患者さんに届かなければ、何の意味もない」と言われていました。また、ノーベル受賞式記念パーティーの後で、「夢のような1週間でしたが、今日でこれも過去形です」ともおっしゃっていました。

先生にとってこの賞の受賞は、ゴールでなく新たなスタートであるということですから。日本の枠を遙かに越えた、グローバルな素晴らしい科学者は、我々に勇気と誇りと感動を与えてくれました。

ユネスコスクールに加盟！

ユネスコ協会（本部フランスのパリ）から8月30日付でユネスコスクールに認定されました。

11月23日に岩国市民館で教育長から認定証を、岩国ユネスコ協会会長より認定記念プレートを送達していただきました。

現在、認定校は世界約180カ国・約9200校、国内は9月段階で489校です。県下では中高一貫校、高校では初めてです。

岩国ユネスコ協会岡崎会長からは、「ユネスコ部や生徒会を中心に中・高が連携して、全校を挙げて取り組んだことが評価された」と讃えていただきました。

これからは、環境やエネルギー、国際理解、世界遺産、防災、生物多様性、気候変動などについて学ぶESD（持続発展教育）の推進拠点校としての役割を担います。引き続き、学校行事や総合的な学習の時間・ロングホームルーム・中学では道徳の時間などに関連性をもたしながら、グローバルな視点で取り組んでいきたいと思っております。



2学期を振り返って



運動会に始まり、文化祭である楽学祭、付中音楽会、中間考査を終えて、修学旅行。期末考査（一部卒業考査）、クラスマッチなどの学校行事が終わりました。

キャッチフレーズは「元気」「やる気」「本気」。みなさん一人ひとり、どのように受け止め、取り組んでできましたか。

私は、「当たり前のことを当たり前続けることにより、本物になる」と信じ、一日一日を全力投球しています。

生徒からは、「厳しいけれど楽しい」。教職員からは、「忙しいけれど楽しい」。保護者からは、「安心して任される学校」と感じてもらえる、学校経営に心がけてきました。

まだまだ道半ば、いや、まだ一步を踏み出したに過ぎませんが、次の言葉を胸に精進していきたいと思っています。

「あなたがいるために、周りの誰かが幸せになる。あなたはそのために生きている」

「おこられた」

ここに一編の詩があります。埼玉県特別支援学校 ^{はなわほきいち} 堀保己一学園に、中途失明で中学部から学んだ卒業生の作品です。「自立」とはどういうことか。支援するとはどういうことか。あらためて、考えさせられました。みなさんも一緒に考えてもらいたいと思います。

「おこられた」
なにもひとりで できなくなった
でも みんな やさしくしてくれた
だれも おこらなくなった
手をひいてくれた きゅうしょくのじゅんぴをしてくれた うれしかった

盲学校にきて おこられた
給食の準備をさせられた 点字を泣くまでやらされた
ひとりで歩かされて 物にぶつかって転んだ
文句を言ったら おこられた 苦しかった でも
自分でやれることが増えた

久しぶりの国語力検定です。チャレンジしてみてください。(12月11日付朝日新聞より)

チャレンジ **語彙・読解力検定**

3日、テレビ朝日系で放映されたクイズバラエティ番組「Qさま!!&お試しかっ!合体2時間SP」で、語彙・読解力検定監修の問題が出題されました。問題の一部を再録します。

【アナウンサー&キャスター軍団への問題】

次の日本語の正しい意味を()の中から選びなさい。

- ①かつて (以前・将来)
- ②なげなし (わずか・哀しい)
- ③したためる (貯蓄する・書きしるす)
- ④はにかむ (恥ずかしがる・悔しがる)
- ⑤すべからく (全て・当然)
- ⑥手をこまねく (準備する・傍観する)
- ⑦雨模様 (雨が降っている・雨が降りそう)
- ⑧慇懃 (礼儀正しいさま・不遜なさま)
- ⑨しどけない (弱々しい・しまりがない)
- ⑩ひねこびる (古い・卑しい)

解答

①以前 ②わずか ③書きしるす ④恥ずかしがる ⑤当然 ⑥傍観する ⑦雨が降りそう ⑧礼儀正しいさま ⑨しまりがない ⑩古い

語力検定 朝日新聞 × Benesse®
<http://www.goi-dokkai.jp/>



時事通信 13日配信

13日に岩国錦帯橋空港が開港しました。その初便しよびんを操縦する機長と副機長に、岩国市出身者が指名されました。副機長の廣田崇昭氏は本校の卒業生(平成12年)です。

彼は、在学中から将来はパイロットになることを目標に中学・高校時代を過ごしていました。そして、見事にその夢を実現し、今回名誉ある初便のフライトを任されました。本当に素晴らしいことです。

今年も2週間あまりとなりました。短い冬休みですが、受験生にとっては最後の追い込みの時期です。まだ、インフルエンザは流行してはいませんが、うがい、手洗いを励行して、万全を期してください。

他の学年のみなさんは、しっかり計画を立てて過ごしてください。年末年始は、何かと家族が集まったり、出かけたりする機会が増えます。健康管理と事故には十分気をつけましょう。

わたしは、新しい年を迎えることができることに感謝して、新たな気持ちで3学期の始業式を迎えたいと思います。良いお年を。